

『胃がん』の基礎知識



今年度から、日南町の住民検診として日南病院でも胃カメラでの胃がん検診が受けられるようになりました。そこで、今月から2ヶ月連続掲載企画！日南病院で胃がん検診を担当されている2人の先生に「胃がん」について教えていただきます。

【問い合わせ：日南病院Tel 8 2 - 1 2 3 5】

保健現場レポート

日南病院
内科

平井 実佳子

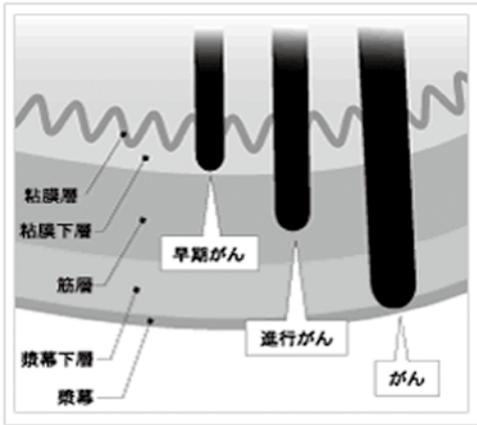
370

日南病院内科医師の平井です。週1回、内視鏡検査を担当しています。今月は、胃がんについてお話します。

胃がんは、日本全国で1年間に約135,000人が診断されます。男性に多い傾向にあり、50歳ごろから増加して、80歳代でピークを迎えます。男性では最も多く、女性では乳がん、大腸がんに次いで3番目に多いがんです。

「胃がん」ってどんな病気？

胃は袋状の形をしています。胃の壁は、大きく分けて3層構造をしています。内側から粘膜（粘膜・粘膜筋板・粘膜下層）、筋層、漿膜（漿膜下層・漿膜）という順に、層が重なってできています。



出典：公益財団法人 日本対がん協会 ホームページより

胃がんは、胃壁の内側にある粘膜に発生します。内側の粘膜から徐々に外側の層に向かって、がんは広がっていきます。がん細胞が、粘膜または粘膜下層までにとどまっているものを「早期胃がん」といい、筋層より深く達したものを「進行胃がん」といいます。治療方針はがんの進行度によって内視鏡治療や手術、抗がん剤治療などがあります。

「胃がん」の症状

胃がんは、早い段階では自覚症状がほとんどなく、かなり進行しても症状がない場合があります。代表的な症状は、みぞおちの痛み・不快感・違和感、胸やけ、吐き気、食欲不振などです。また、貧血や黒い便が発見のきっかけになる場合もあります。これらのような症状があれば、検診を待たずに医療機関を受診しましょう。その他の良性的胃の疾患として、胃ポリープ、胃潰瘍、慢性胃炎などがあり、胃がんと似たような症状が起こることがあります。

「胃がん」の発生要因

胃がんの発生要因としては、ヘリ



コブクター・ピロリ（ピロリ菌）の感染、喫煙があります。その他には、食塩・高塩分食品の摂取が、発生する危険性を高めることが報告されています。

「胃がん」の早期発見には、胃がん検診が有効！

前述のとおり、早い段階では自覚症状はほとんどないため、早期発見には検診が有効と考えられます。胃がん検診の方法についてはバリウム検査（胃透視検査）、胃カメラ検査（内視鏡検査）があります。胃がん検診でピロリ菌が悪さをしていると考えられる場合は、医療機関に紹介し、検査、除菌療法を行うことも可能です（適応や効果については個別に詳しくお話しします）。

最近では早期がんについて内視鏡治療が可能なものもあり、治療はもちろん、手術よりも体の負担が軽くなるという利点があります。早期発見のためにもぜひ検診をご活用ください。

次回、「バリウム検査と胃カメラ検査の違い」について、加藤先生に引きついでお話しさせていただきます。

